

平成15年度施政方針 ・平成15年度予算



3月3日から20日までの会期で開催された平成15年第1回3月定例会市議会の初日に、戸張市長が新年度の施政方針を報告しました。また同議会で新年度の一般会計、5つの特別会計予算および水道事業会計が成立しましたので、主なものを抜粋してお知らせします。

施政方針

我が国経済は、景気改善の動きが弱く足踏み状態となっており、企業収益の改善も緩やかなものにとどまるなど設備投資の減少基調が続く、家計の所得や雇用環境も依然厳しい状況が続いております。

地方財政は、地方税収入や地方交付税の原資となる国税収入が大幅に減少する一方、公債費が累増することなどにより、引き続き大幅な財源不足が見込まれております。また、地方分権の推進は、地方自治体の創造性・自立性を高め、積極的な施策の展開を図っていくことが求められており、所要の財源確保が課題となっております。

本市の財政は、歳入の柱であります市税をはじめ、収入の増加が見込めない状況の中で、環境問題への取り組みや教育の充実、少子・高齢化の進行など社会情勢の変化への的確な対応など、行政に期待される役割は大きく、財政需要は増大しております。

このような中で編成いたしました平成15年度予算は、市民の皆様が厳しい経済状況にありながらお預かりする税金や負担金の重さを認識し、「最少の経費で最大の効果」があげられるよう、事業の効率的な執行や経常経費の節減な

どに努め、市民生活の維持・向上にとって真に必要で効果的な事業を優先し、重点化を図ったところでございます。

以下、第四次吉川市総合振興計画の施策の体系に沿って、主なものについて申し上げます。

心ふれあうひらかれたまちづくり — 市民交流

第一の柱は、「心ふれあうひらかれたまちづくり」でございます。まず、「コミュニティ活動の推進」についてですが、私は、すべての市民が心豊かで充実した生活を送ることができるよう、自治会長との行政懇談会やさまざまなイベントを通じて、市民のコミュニティ意識の高揚や自主的な活動をするための施設整備を行うなど、自治会の健全な運営と自主的な活動の支援、コミュニティ活動の充実を図ってきたところであります。市民が心と心のふれあいを感じ、誰もが住んで良かったと思われる吉川を実現するために、地域におけるコミュニティ活動の活性化を図るとともに市民が参加できる機会の拡大など、市民参加によるまちづくりを推進してまいります。また、市民が身近な自治会活動を通して、

一般会計予算

景気改善が低迷している我が国の経済状況下、一般会計予算額は、前年度比一・八%減の百五十五億二千八百万円。「最少の経費で最大の効果」があげられるよう、事業の効率的な執行や経常経費の節減などに努め、市民生活の維持・向上に必要で効果的な事業を優先し、重点化を図った予算編成となっております。

歳入

歳入で一番多い割合を占める市税は前年度より三・三%、二億三千百十五万八千円の減、地方交付税(国が地方公共団体の格差を調整するために交付するものは十七%、四億円の減となっております。市債(市が国や県、民間の銀行から資金を借り入れるもの)は前年度より十・四%、一億七千四百八十万円の減、国庫支出金(国が地方公共団体に対して、公益性がある福祉や土木事業などに充てるもの)は八・六%、一億一千二百八十二万二千円の増となっております。このほか、県支出金、繰入金など総額百五十五億二千八百万円が本年度の歳入予算です。

歳入の内訳

